



久喜メディカルクリニック院長 早瀬 仁滋

最近では朝晩少し涼しくなり、1日1日過ごしやすくなったように感じます。患者さまには、今年の夏、暑さのため体調を崩したり、食事が思うように摂れず通院された方も少なくないようでした。

ひと夏超える度に、暑さが増すような気がします。

8月中のお盆の際にはお休みを頂き、CT室のCTの入れ替え工事をさせていただきました。この度、最新のマルチヘリカルCTを導入し、従来の放射線被爆量の減少により患者様の放射線による被曝量を著しく低下するだけでなく、スライス間隔が0.5mmまで凝集され更なる診断の質を高めます。

また、2次元、3次元処理を行う事で、従来にない画像構成が可能になり、今までよりはるかに超えた診断を実現します。

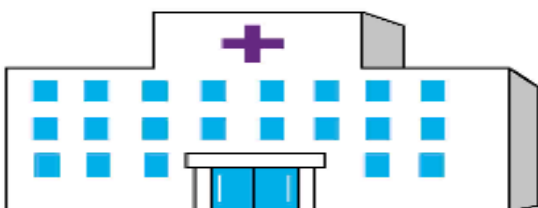
また、10月には、新棟が増築され今まで狭い中で強いられていたリハビリ治療がゆったりとした広さのなかで行えるようになりました。

新棟には更にMRI検査が可能になります。1.5テスラーの超伝導型MRIにて、血管撮影(MRA)から痴呆の評価、梗塞の質的診断が可能になり、整形領域ではヘルニア、脊柱管、あらゆる関節内の診断が可能になります。癌領域でも乳癌のガドリウムによる最新の早期診断が可能となります。胆道系でもMRCPによるすい臓疾患から、胆道系の診断に有用です。心血管系では、冠動脈疾患の早期診断に役立ちます。私たちは、さらなる可能性に努力して参りたいと思います。

新棟にはカンファレンス室も増設され、職員の教育や当院にて学ぶ実習生の教育、更に患者さま・ご家族との病状説明や医療相談と幅広く利用できる部屋として活用できるようになります。

従来既存のリハビリ室は、新棟への通路だけでなく、点滴室として利用させていただきます。特に化学療法や、感染症患者さまの隔離診療として幅広く利用できるスペースとして利用されることとなります。“患者さまから、患者さまへ”患者さまからいただいた貴重な診療報酬は患者さまの更なる診断・治療へ還元する。これが私たち職員の奉仕にひとつと考えています。

私たち職員一同患者さまに満足していただける医療を提供できるよう日々努力していきたいと思ます。患者さまにおきましては、当院が皆様に愛される施設であるようにご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



MRI 検査

放射線科 巨理健太

<MRI 検査とは>

MRI 検査とは、強い磁石とラジオに使われているような電波を用いて体内の状態を画像にする検査です。体内の水素原子を磁場と電波の力でゆさぶり、原子の状態を画像にします。体内の様々な病気を発見することができますが、特に脳や脊椎、四肢などの病気に高い検査能力を持っています。

MRI 検査に有効な疾患の一例を以下の表にまとめてみました。

診療科	疾患
脳神経外科・神経内科	脳の腫瘍、脳血管疾患、変性疾患、脳奇形、外傷
消化器外科・内科	肝・胆・膵の腫瘍性病変
整形外科	頸椎症、胸椎・腰椎のヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄奇形、骨軟部腫瘍、関節の靭帯損傷、半月板損傷など
泌尿器科	腎臓・尿管・膀胱の異常
婦人科	子宮・卵巣の異常
小児科	小児全身の異常
耳鼻咽喉科	内耳、咽頭・喉頭の異常
眼科	眼科や眼球内部の腫瘍など

<検査の流れ>

MRI 検査を行う前に確認することがあります。MRI 検査は、大きい磁石と電波を使うので、患者様によっては検査を行うことができない場合があります。まず、心臓ペースメーカーを装着している患者様、脳動脈クリップなど体内に金属がある患者様は検査を行えません。強い磁石に引っ張られて、体内の金属が動いてしまう可能性があります。また、検査時にはトンネルのような筒の中に入ってくださいので、閉所恐怖症の患者様は検査が行えないことがあります。

さらに、MRI 検査室には大きい磁石が置かれているため、金属類を身につけたまま検査を行うことはできません。金属が機械に吸い込まれたり、電子機器(時計・携帯電話など)は壊れることがあります。また、アイラインなど化粧品に含まれる微小な金属が電波の影響で熱をもって、火傷の原因にもなります。検査前には化粧類は落として検査する必要があります。

検査の流れとしては、患者様にベッドに仰向けで寝てもらい、磁石の役割をする大きいトンネルの中に入ってもらいます。そして、ラジオに用いられるような電波を身体にあてることによって、体内から放出される信号を受け取り、画像を作ります。また、検査を行っている最中に機械から大きな音が発生します。MRI 検査では、画像を作るために、磁場を変化させる必要があります。この磁場を変化させるときに大きい音が発生します。検査時間は、検査の目的によっても変わりますが、およそ 20 分~40 分です。

MRI 検査は磁石と電波によって画像を得るため、CT 検査のような放射線による被曝がありません。これが MRI 検査の大きな特長の一つです。そのため、上に書いたような特別な理由がなければ安心して検査を行うことができます。そして、もう一つの大きな特長は造影剤を使用しなくても血管の情報が得られることです。CT 検査などは造影剤を体内に注入することによって血管の情報得ますが、MRI 検査では特別な検査方法で、造影剤を使用しなくても脳の血管の情報を画像にすることができます。

「身近な所に危険が潜んでいる」

理学療法科 理学療法士 三木 康寛

今回は転倒について少々語りたと思います。転倒といえば冬、路面が凍結して滑って転ぶというイメージがありますが、頻度は1年を通してそれ程大きな変化はありません。つまり自然環境が大きな要因ではないという事です。当院で見ている(見てきた)患者様の多くは歩道の縁石や玄関の段差、車の輪留め、自宅内の段差などにつまづいて転倒します。そう。みなさん割と普段目にするようなところで転んでいらっしゃるのです。

では、原因について考えてみましょう。一つは体の要因、筋力が低下してきている、というところにあります。脚の筋力が低下してきて段差を越えたつもりが越えきれず、つまづくといった具合です。これを解消するには適切な筋力トレーニングが必要です。その方法の一つがこれです。



この体操は脚力をつけるのに最も簡単な筋力トレーニングだと思います。10回ずつを1日3~5セットくらい行ってみてください(どこかに痛みが出るようなら無理をしないでくださいね)。

転ぶのには筋力だけが問題ではありません。筋力がしっかりしている方でも転ぶからです。ではなぜ転ぶのか、それには注意力という問題が関わっていると考えます。人間は常に目からの情報や経験を頼りに周囲に気を配り動いています。しかし加齢に伴い目から得た情報を頭の中でうまく処理できず、近くにある危険に気づかないといった事が起こります。「慣れ」というのも同じような事が起こり得ます。慣れは「いつも居る家だから」「いつもと同じ道だから」という油断を生み出します。そうする事で注意力が低下し転んでしまうのではないかと考えられます。

注意力をつけるのに簡単な方法は「間違い探し(書店に売っています)」や JAF で発行している「JAF メイト」の「危険予知トレーニング(JAF 会員の方はぜひやってみてください)」などです。また身近にある段差や転びそうな箇所を自分でチェックしておく事も大切です。

転んで良い事はありません。大腿骨頸部骨折(脚の付け根の骨折)や橈骨遠位端骨折(手首の骨折)などで手術をする方も多いです。

何事も予防が大切です。ご自分で出来ることから始めましょう。

それにしても今年は暑い夏ですね。他の方も記事で書いているかもしれませんが、113年間の観測史上1番暑い夏みたいです。9月になっても涼しくなるわけではないようなので、熱中症には十分気を付けてくださいね。

「気を付けて 危険は身近に 潜んでいる」

医事課

CT 機器の変更について

8月16日からCT機器が1列から16列に変更になりました。
上記に伴いまして、料金も変更になりました。

3割患者様の場合

1列(単純撮影の場合)1,800円 → 16列(単純撮影の場合)2,700円

1割患者様の場合

1列(単純撮影の場合)600円 → 16列(単純撮影の場合)900円
に変更となりました。

MRI の導入

秋頃導入予定のMRIが設置されます。3割患者様の場合

MRI(単純撮影の場合)約4,000円

1割患者様の場合

MRI(単純撮影の場合)約1,350円

となっております。ご参考までに御案内させていただきます。
ご不明な点がございましたら、受付までお尋ねください。



「インフルエンザ予防接種が10月から受付開始します。」

予約無しにて受付致します。予防接種代は1回目、2回目共に3,600円です。
ご希望の方は受付にてお尋ねください。

(注意事項)

尚、季節性インフルエンザワクチンはなくなり、新型に統一されました。

公費負担は国でまだ確定されていませんので、決まり次第掲示していきます。

